

令和2年度第1回大分市行政評価・行政改革推進委員会

1. 日時 令和2年7月13日(月) 15:00~17:00

2. 場所 大分センチュリーホテル 2階 桜の間

3. 出席者

○大分市評価・行政改革推進委員会委員

委員長	安部 茂	委員	池邊 泰治
副委員長	渡邊 博子	委員	植松 康成
委員	石井 公二郎	委員	丹羽 和美
委員	長崎 浩介	委員	佐藤 宝恵
委員	中島 英司	委員	谷川 真奈美
委員	矢野 正一	委員	江口 公二
委員	山本 勝紀	委員	井上 仁美

(欠席1名)

○出席職員

大分市長	佐藤 樹一郎	農林水産部長	加藤 典臣
大分副市長	久渡 晃	土木建築部長	清水 剛
大分副市長	木原 正智	都市計画部長	姫野 正浩
教育長	三浦 享二	議会事務局長	奈良 英治
上下水道事業管理者	三重野 小二郎	上下水道部長	板井 隆
総務部長	佐藤 耕三	消防局長	針宮 誠司
企画部長	伊藤 英樹	教育部長	佐藤 雅昭
財務部長	西田 充男	監査事務局長	佐藤 等
市民部長	末松 広之	企画部審議監	広瀬 正具
福祉保健部長	斉藤 修造	企画部次長	高橋 賢次
子どもすこやか部長	藤田 恵子	企画部次長兼企画課長	小野 晃正
環境部長	大石 晃	財務部次長兼財政課長	吉良 昌昭
商工労働観光部長	永松 薫	総務部人事課長	高橋 史晃

○事務局

行政改革推進室室長	山口 大介
行政改革推進室主査	石川 ゆかり
行政改革推進室主任	山香 仁
行政改革推進室主任	姫嶋 壮

4. 次第
- (1) 委嘱状交付
 - (2) 市長挨拶
 - (3) 委員紹介
 - (4) 委員長挨拶
 - (5) 関係職員自己紹介
 - (6) 開会
 - (7) 議題
 - ①「大分市行政改革推進プラン 2018」の進捗状況について
 - ②「大分市行政改革推進プラン 2018」の今後の取組方針について
 - ③その他
 - ・大分市行政評価・行政改革推進委員会指定管理者評価部会の部会員の指名について
 - (8) 閉会

<p>企画部次長</p>	<p>皆様、こんにちは。私は、本日司会を務めさせていただきます、企画部次長の高橋と申します。どうぞよろしくお願いいたします。皆様方には、大変お忙しい中、御出席いただきまして誠にありがとうございます。まず、本日の日程について御説明をいたします。委員会に先立ちまして、委嘱状の交付を行います。</p> <p>その後、令和2年度第1回大分市行政評価・行政改革推進委員会を開催いたします。委員会では、議題1として、大分市行政改革推進プラン2018の進捗状況について、事務局から御説明を行った後に、質疑応答の時間を設け、引き続き議題2として、大分市行政改革推進プラン2018の今後の取組方針について、御説明及び質疑応答とさせていただきます。</p> <p>最後に議題3、その他といたしまして、大分市行政評価・行政改革推進委員会指定管理者評価部会の部会員の指名について御説明をさせていただきます。どうかよろしくお願いをいたします。</p> <p>それでは、大分市行政評価・行政改革推進委員会委員の委嘱状交付を行います。今回委嘱をいたします委員は、15名でございます。代表いたしまして、委員長に指名をさせていただきました、安部茂様に委嘱状を交付いたします。市長、安部様は中央へお進み下さい。他の委員の皆様、職員は恐れ入りますが、その場にて御起立をお願いいたします。</p>
--------------	---

市長	<p>委嘱状、安部茂殿。大分市行政評価・行政改革推進委員会委員長を委嘱します。委嘱期間は令和2年7月13日から令和5年3月31日までとします。令和2年7月13日、大分市長佐藤樹一郎。よろしくお願いいたします。</p>
企画部次長	<p>市長、安部茂様はお席の方へお戻りください。他の委員の皆様、職員は御着席ください。なお、委嘱状につきましては、それぞれ席の方に置かせていただいておりますので、御確認をお願いいたします。</p> <p>それではここで、佐藤大分市長より御挨拶を申し上げます。</p>
市長	<p>ただいま、安部委員長さんをはじめ、委員の皆様にご挨拶をさせていただきました。皆様には、大変御多忙の中、委員をお引き受けいただきまして、誠にありがとうございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>さて、挨拶に先立ちまして、この度の豪雨により沢山の方が被災をされ、お亡くなりになった方もおられますことに心からお見舞いとご悔やみを申し上げます。大分市におきましては、幸いなことに命を落とされた方はいらっしゃいませんでしたが、隣の由布市では亡くなった方もおられます。また、特に祓川、尼ヶ瀬川等が雨で氾濫をいたしまして、浸水被害が40棟を超えるような状況となっております。このような中で、消防団、自治委員、自主防災組織の皆様をはじめ沢山の方に御尽力をいただきましたことにつきまして感謝を申し上げます。今日の夜ぐらからまた雨が降り出しますので、より警戒を強めて取組を進めていきたいと考えております。</p> <p>また、コロナウイルス感染症対策でございますけれども、大分市では87日と今日の午前中まで陽性者が出ておりません。ただ、日本全体の状況を見ますと、九州の中でも福岡、鹿児島、そして宮崎も昨日は発生しているということでございます。最初は、夏暑くなると消えてしまっ、次のインフルエンザの時期に備えればいいのかと思いましたが、決してそのような状況ではないということが段々明らかになってきております。</p> <p>このような中で、大分市は今、小中学校、それから高校等もすべて授業を再開しておりますし、施設につきましても、基本的に通常どおりの使用をいただいておりますけれども、次なる様々な状況を踏まえていろいろな取組をしていかなければならないと考えております。これにつきましても地域の皆様、そして商店街の皆様をはじめ、</p>

多くの方々がしっかり取組をしていただいておりますし、また、学校の現場でありますとか、保育所や様々な障がい者の皆さんの施設でありますとか、それぞれの所でいろいろな取組をしていただいております。その成果が、87日という事であろうと思いますけれども、インフルエンザと同じような感染症でございまして、いくら注意しても出るときは発生をします。その時にいかにきちっと対応していくかが大変重要であると考えております。発症した人が悪いということではなくて、発症して感染者が出ましたら、そこから先、いかに感染の拡大を防止していくか、そのような意味で、不特定多数の方がお見えになる飲食店、今、夜の街とか言われておりますけれども、大分市は夜とか昼とか関係無しに不特定多数の方が見えたお店につきましては、名称を公表させていただきまして、その先ですね、お見えになった方々に注意を促して感染の拡大を防止するという取組を今までできております。今後もこのような形で感染拡大の防止に取り組んでいきたいと思っておりますので、是非御協力をよろしくお願い申し上げます。

そして、行政評価、行政改革でございまして、これから人口減の中で、地方自治体のあり方自身が問われております。大変重要な課題でございまして、これまで2つの、大分市外部行政評価委員会、そして大分市行政改革推進市民委員会という形で、御議論をいただいていた所でございますけれども、両者が極めて関係の深い委員会でございますし、またその取組自体につきましても様々な御意見をいただきました。今回ですね、この2つの委員会を1つにさせていただきまして、初めての取組でございまして、このような形で開催をさせていただきたいというふうに考えております。そして今までの議論というのはやはり効率化、外部の方から見ていただいた時にいかに行政を効率化していったら、そして行政の様々な指標と照らしてどのように成果を上げていっているか評価をしていくという視点が主だったと思います。この視点は大変重要でございまして、災害でございまして、感染症の状況を見るにつけてですね、そのような事が起こった時にも対応できるような体制をいかにつくっていくかということも、併せて大変に重要なテーマではないかと考えてございまして、そういう意味では、今まで以上に大変様々な要素が入ってきてですね、ある意味で難しい課題を抱えておりますけれども、そのような中で皆様の御意見、そして様々な御提言というのは、私どもにとりましても、重要でございまして、また大切にしていかなければならないと

<p>企画部次長</p>	<p>いうふうに考えている次第でございます。</p> <p>本日は限られた時間でございますけれども、是非、忌憚のない御意見を賜りまして、そしてそれを私どもは最大限に生かして取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。</p> <p>ありがとうございました。これより、委員の皆様の御紹介をさせていただきます。お名前を読み上げますので、大変恐れ入りますが、呼ばれた方は御起立、一礼の後に御着席をお願いいたします。</p> <p>それでは、委員長の安部茂様。副委員長の渡邊博子様。石井公二郎様。長崎浩介様。中島英司様。矢野正一様。山本勝紀様。池邊泰治様。植松康成様。丹羽和美様。佐藤宝恵様。谷川真奈美様。江口公二様。井上仁美様。なお、荒金一義様におかれましては、本日所用により御欠席されております。</p> <p>それではここで、安部委員長に御挨拶をいただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。</p>
<p>安部委員長</p>	<p>それでは、委員を代表いたしまして一言御挨拶を申し上げます。</p> <p>今回、私を含め 15 名の委員の方が、新しくスタートする大分市行政評価・行政改革推進委員会の委員として選任されました。大変身が引き締まる思いでございます。この委員会を通して、大分市の行政評価と行政改革について、市民、私たちが代表ということになりますが、しっかりと意見をフォローアップしていただいて、市政運営に役立てていただければと考えております。私も、委員長に指名されましたので、議事が速やかに進むことと、闊達な意見を市政の方にお伝えできるよう努めていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
<p>企画部次長</p>	<p>ありがとうございました。続きまして、会議に入る前に、本日出席している大分市職員の自己紹介をさせていただきます。久渡副市長から順にお願いをいたします。</p> <p>(出席職員による自己紹介)</p> <p>それでは、ただいまより令和 2 年度第 1 回大分市行政評価・行政改</p>

<p>安部委員長</p>	<p>革推進委員会を開会いたします。</p> <p>本委員会設置要綱第6条の規定に基づき、安部委員長に議長をお願いいたしたいと思います。安部委員長、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、始めたいと思います。委員長の安部でございます。委員の皆様におかれましては、御多忙の中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>会議の開催に当たりまして、まず委員の皆様を確認を取らせていただきたい事がいくつかあります。会議の公開についてでございますが、大分市では、審議会等の会議は公開に努めることとということになっています。本日の会議は特に非公開とする理由がございませんので、公開したいと考えておりますが、よろしいでしょうか。</p> <p>(一同異議なしの声)</p> <p>異議が無いということで、公開とさせていただきたいと思います。また、併せて本日の会議の議事録につきましては、市のホームページで公開するという事でよろしいでしょうか。</p> <p>(一同異議なしの声)</p> <p>では、公開するということにさせていただきます。</p> <p>本日の議題は、大分市行政改革推進プラン2018の進捗状況と今後の取組方針についてでございます。大分市の行政改革の推進に関して、市民目線で議論を展開してまいりたいと思いますので、どうぞ闊達な御発言をよろしくお願いいたします。それではお手元の次第に従って議事を進めてまいります。</p> <p>まず、議題1の大分市行政改革推進プラン2018の進捗状況について、事務局の方に説明をお願いします。</p>
<p>行政改革推進室長</p>	<p>事務局より大分市行政改革推進プラン2018の進捗状況について、説明をさせていただきます。</p> <p>大分市企画課行政改革推進室の山口と申します。よろしくお願いいたします。恐れ入ります。座って説明させていただきます。</p> <p>本日はお手元にお配りさせていただいた『大分市行政改革推進プ</p>

ラン 2018』の進捗状況及び今後の取組方針について」という表題の A4 版横の資料をもとに御審議いただきたいと存じます。

委員の皆様には、事前に資料の内容についての御説明をさせていただいているところがございますので、大変恐縮ではございますが、時間に限りもございますことから、本日の説明はごく簡単にさせていただきます。それでは、議題（１）の「大分市行政改革推進プラン 2018」の進捗状況について説明させていただきます。

資料の 1 ページをご覧ください。はじめに、改善効果額の実績についてでございます。事前に御説明させていただいたとおり、本プランでは、2018 年度から 2022 年度までの 5 年間で、38 の推進項目、156 の推進プログラムに取組、5 年間の累計で目標 75 億円の改善効果額の達成を目指しております。1 ページの表は、改善効果額が出た推進項目、推進プログラム及び、各推進項目に係る 2019 年度単年度の効果額と 2108 年度からの累積効果額の合計を記載しています。改善効果額が出た取組は、全部で 10 項目となっております。特に本プランからの新しい取組といたしましては、3 つ目の「計画的保全による公共施設等の長寿命化」がでございます。持続可能な公共サービスの維持に向けた公共施設等の課題解決のため、中長期的視点に立った計画的な保全を推進する取組でございます。現在、学校校舎や屋外運動場などの教育施設や橋梁等のインフラなどの計画的な長寿命化を進めることによって、新たに建て替えるコストを削減しているところがございます。また、9 つ目の「公営企業における健全運営の推進」につきましては、2018 年度に統合いたしました上下水道局における取組でございます。上下水道工事の一括発注、水道水の有効率の向上、公共ます早期接続促進、公共工事との同時施工などに取り組んでいるところがございます。これらの取組により、プラン初年度の 2018 年度からの改善効果額実績の累計額は、約 32 億円となり、5 年間の計画目標である 75 億円に対するプラン 2 年目での達成率は 43% となっております。

次の 2 ページは、先ほど御説明いたしました推進項目における取組例を記載しております。

取組例 1 は、橋梁等の計画的な長寿命化の推進についてでございます。土木建築部での取組になります。取組例 2 は、配水場で民設民営の小水力発電を実施し水力利用料収入を確保している上下水道部の取組になります。

次の 3 ページから 10 ページまでは、その他、156 ある推進プログ

	<p>ラムに係る進捗状況として、各部局の主な取組における 2019 年度、昨年度の実績と 2020 年度、本年度の計画について記載しております。</p> <p>それでは 3 ページをご覧ください。「市民満足と利便性のさらなる向上」に向けた取組でございます。上段は、教育部における、スクールソーシャルワーカー配置の取組でございます。不登校、いじめ、児童虐待等の生徒指導上の課題に対応するため、スクールソーシャルワーカーを市内全中学校と義務教育学校に配置し、切れ目のない支援体制の整備充実を図っています。昨年度は虐待対応等で福祉等関係機関との連携強化を図るため、主任スクールソーシャルワーカーの子ども家庭支援センター職員への併任を拡大しております。本年度はこれらを統括するスクールソーシャルワーカーを配置することにより組織的な対応の強化を図ってまいります。下段は、市民部における、マイナンバーカード申請補助のサービス拡大についての取組でございます。昨年度は窓口の席数を増設し、本年度は土日、平日時間外の開庁日を新たに設けるとともに、申請時来庁方式を導入して、来庁者の負担軽減を図ることといたしております。</p> <p>4 ページをご覧ください。上段は、財務部における、市税等の納入に係るクレジット収納等についての取組でございます。昨年度より、クレジットカード収納等を本格導入いたしましたところであり、本年度もさらに市民の利便性の向上に向け、新たな納付方法等を検討してまいります。下段は、企画部における、電子申請システムの利用の拡充に向けた取組でございます。大分市では、大分県電子申請システムの共同利用により、市民の方がパソコンなどからインターネットを利用して手続を行うことができるよう取り組んでおります。昨年度は、市のホームページ等で電子申請利用に関する周知を行い、本年度はさらに手続の拡充と利用促進に向けた取組を進めてまいります。</p> <p>5 ページをご覧ください。「多様な主体との連携による活力の創造」に向けた取組でございます。上段は、福祉保健部における、市民健康づくり運動指導者・介護予防サポーター養成の取組でございます。市民に健康づくり・介護予防を推進啓発するため、市内 3 エリアで養成講座を開催しており、昨年度も計画通りに養成講座を開催いたしましたが、年々高齢者の要介護・要支援の認定者数が増加しておりますことから、本年度も引き続き早期の健康づくりや介護予防の取組として継続して推進するとともに、運動指導者による市内各地での運動教室の開設を進めてまいります。下段は、農林水産部における、森林セラピーの取組でございます。森林セラピープログラムの実施やセラピー</p>
--	--

ロードの整備を団体等と連携して進め、森林セラピーを活用していくことにより、地域の活性化を図っており、昨年度は体験ツアーなどのイベントに 780 人が参加しました。本年度は有資格者の養成講座を実施するとともに、整備支援事業の奨励金を拡充するなど、さらなる充実を図ってまいります。

6 ページをご覧ください。上段は、消防局における、応急手当普及員による活動の推進に向けた取組でございます。応急手当普及員の資格を持つ市民による救急救命講習の開催について、昨年度の調査では開催回数が増加しておりました。本年度も引き続き、応急手当普及員への側面支援を行うことで、制度の充実を図ってまいります。下段は、環境部における、新環境センター整備に向けた取組でございます。大分市、由布市、臼杵市、津久見市、竹田市、豊後大野市の 6 市のごみを広域で処理する「新環境センター」の整備を、圏域の中心市である大分市が主体となり、各市と連携の下で進めているものでございます。昨年度は、建設予定地の決定に関する覚書を締結するなどいたしました。本年度は、6 市において、住民への周知等の足並みをそろえながら、施設規模や具体的な機能についての協議を進めてまいります。

7 ページをご覧ください。「安定的な行財政基盤の強化」に向けた取組でございます。上段は、環境部における、家庭ごみ有料化制度に係る取組でございます。昨年度は、家庭ごみ等を施設に搬入する際の施設使用料や大型ごみ・一時的多量ごみの有料収集に係る手数料について、受益者負担の適正化の観点から改定を行いました。本年度は、平成 26 年度より始まった家庭ごみ有料化制度について 3 年ごとの見直しを行う年となっておりますことから、その継続及び費用負担の公平性について検証を行ってまいります。下段は、企画部における、公共施設等の総合的なマネジメントの推進に係る取組でございます。昨年度は、大分市公共施設等総合管理計画の基本方針に基づき、特に学校施設や橋梁等のインフラ施設について長寿命化を推進するとともに、総合管理計画の改定を行いました。本年度については、改訂した総合管理計画の周知を行うとともに個別施設計画の改定や策定を進めてまいります。

次に 8 ページをご覧ください。「合理的・効率的な事業手法による行政運営」に向けた取組でございます。上段は、総務部における、公文書の電子化についての取組でございます。昨年度は電子化率の低い部署への指導等により、公文書電子化率が 78%まで上がりました。

<p>安部委員長</p>	<p>本年度についても、電子化のための文書編集ソフトの操作方法の周知などを行い、さらなる電子化率の向上を図ってまいります。下段は、商工労働観光部における、ふるさと納税制度の活用の取組でございます。地場産業の活性化に資するためにも寄附の増額を目指しており、昨年度には、アマゾンペイなどの決済手段を追加しました。本年度は、寄附受入れのサイトを増やすなどして受入れの間口を広げてまいります。</p> <p>9ページをご覧ください。上段は、都市計画部における、大分いこいの道広場、大分駅南北駅前広場、祝祭の広場の各広場の貸し付けによる自主財源確保の取組でございます。昨年度は154件の貸付けを行い、約850万円の収入を確保いたしました。本年度は、新型コロナウイルス感染拡大の動向を踏まえながらにはなりますが、財源確保に向けて引き続き各広場の貸付けを促進してまいります。下段は、子どもすこやか部における、放課後児童クラブ提供体制の充実に向けた民間活力の導入の促進の取組でございます。社会情勢の変化に伴い、放課後児童クラブの利用ニーズは高まっており、利用者が急増しても待機児童が生じないよう、民間活力の導入による対応を図っているところでございます。昨年度の取組により、本年度から新たに3校区の導入が決まりました。引き続き必要な校区での検討を行ってまいります。</p> <p>次に10ページをご覧ください。上段は、教育部における、PFI手法の活用に係る取組でございます。昨年度は市内の小学校49校の教室へのエアコン設置について、PFI手法を活用して一気に設置を完了させたところです。また今後施設整備を進める金池小学校について、PFI手法により事業者選定を行い、本年度には本契約を締結し、詳細設計を行ってまいります。下段は、「職員の意識改革と組織体制の強化」に向けた取組で、総務部における、職員の適正配置に係る取組でございます。職員配置については、職場ごとの業務量を把握し、その適正化を図っているところでございますが、昨年度は、ラグビーワールドカップ関連業務の増加に伴う増員や国民文化祭・障がい者芸術文化祭関連業務の収束に伴う減員等を行いました。本年度は、新型コロナウイルス感染症対応を含め、職場ごとの業務量を把握する中で、適正配置に努めてまいります。議題1についての説明は以上でございます。</p> <p>ありがとうございました。只今の事務局の説明について、何か御意</p>
--------------	--

<p>谷川委員</p>	<p>見、御質問等あれば挙手をさせていただければと思います。いかがでしょうか。</p> <p>議論が多岐に渡る可能性がありますので、質問等出していただき、それに関連した部分、他の委員さんから御意見、御質問をいただきながら議論を膨らませていければと思いますが、いかがでしょうか。どなたか口火を切っていただければ。</p> <p>NPO 法人の地域ひとネットの谷川でございます。私は囲碁をツールとして、コミュニケーションの力をつけ、介護予防や子育て支援を主に活動しております。もう1つの柱として、県内のNPO 団体や市民団体、ボランティア団体の活動の支援をしていますが、その中の団体さんの声をご紹介させていただきたいと思います。御質問が2つあります。ソーシャルワーカーの増員というのは、とても賛成でございます。その中で、市民活動団体との協働や情報交換というのは現状行われているのでしょうか。もし情報交換がなされていないならば、何か課題点があるのかが1点。2点目は、地域に開かれた学校ということで、地域コーディネーターを教員の方が担う場合と、地域人材を生かす場合があるのですが、現状どのようになっているのか、お尋ねしたいと思います。</p>
<p>安部委員長</p>	<p>では、今の質問の点に関して、事務局等の方でお答えいただければ。教育部長よろしく願いいたします。</p>
<p>教育部長</p>	<p>教育部長の佐藤です。まず、スクールソーシャルワーカーの件ですが、市民団体との交流等につきましては、スクールソーシャルワーカーが校長の指揮の下で、社会福祉士等の専門的な知識及び技能を發揮しながら、行政や関係機関と連携し、児童生徒のおかれた様々な環境に働きかけて、不登校をはじめ、児童虐待など生徒指導上の課題へ対応することを役割としております。学校と地域のつながりについては、地域の情報を共有し、福祉機関等と連携した相談活動など、包括的な支援を行うことが重要だと考えております。ただし、児童生徒の個人情報につきましては、やはり児童福祉法や児童の虐待の防止等に関する法律によって、学校側が第三者へ提供することはできないと法律上で定められております。しかしながら、地域と関係機関がネットワークを構築するということは、本当に重要だと考えておりますので、ワーカーは子ども家庭支援センターや児童相談所等と、月に1</p>

	<p>度行われる会議や、校区の民生委員と学校との会合に参加するなど、必要な情報交換や協議を行っているところでありまして、今後とも地域や関係機関との連携を密にして、支援の充実に努めてまいりたいというふうに考えております。</p> <p>すみません。地域コーディネーターの件なんですけど、学校の教員がなっているのか、又は民間の方がやっているという質問ということでよろしいですか。</p>
谷川委員	<p>全国の調査の結果を見ると、平成 30 年度の調査結果では大分県は 8 名となっております。地域コーディネーターを置く場合、教職員が担う場合と、地域の人材を使って民間の方がするパターンがあるんですけど、大分市はどのようなになっているのか伺いたいです。</p>
教育部長	<p>この件については、確認をさせていただきます。</p>
谷川委員	<p>すみません。私は市民活動という立場からですが、市民活動の弱みとして 2 つあります。1 つは、団体同士の連携がなかなか難しいという点、もう 1 つは、学校に市民活動に関わっていきたいが、学校側もどんな団体か分からないということで、大分だけに限らず透明性、信頼性を伝えることを苦手とする点が市民活動の弱みと挙げられる部分です。</p> <p>大分は本当にボランティア団体が盛んなところなんです。コロナ禍の中、いろんな細かなニーズが出てくるかと思うので、情報交換等、関係機関との連携ができればと思っております。もう 1 つは、信頼性という意味においては、活動の内容だけではなくて、組織評価ということも、全国で見直しがされています。大分でも 2 年前から、組織の第三者評価を受ける取組を実施しております。是非、組織評価という、団体の信用性を担保することをしてしておりますので、協働の推進につながれば良いと考えております。以上です。</p>
安部委員長	<p>よろしいでしょうか。今の市民団体等との行政との連携について、他の御意見等があれば併せて言っていただければ。</p> <p>丹羽委員、いかがでしょうか。</p>
丹羽委員	<p>丹羽でございます。私は平成 28 年から大分市の外部行政評価の委員をさせていただきました。単年度の予算執行等いろいろな事項につ</p>

	<p>いて、評価をさせていただいてきました。この度、この大分市行政評価・行政改革推進委員会が発足するに当たって、改めまして大分市の中期的な財政収支の試算で、過去5年ほど遡った内容で、例えば財政調整用基金等が潤沢であったのか等の辺りを少し整理していただいて、よって財政健全性を確保するために、このような行財政改革を実行されて、今現在このような改善が成されているというふうに、最初に御説明いただくと、意見や質問がしやすいかなと思います。資料と説明があまりにも、最初のページで進捗の分の大きな数字から、次のページ、6ページぐらいから、1名とか2名という小さな数字で結果を表す資料になっていますので、先に述べたように「最初の整理」をしていただくと、非常に意見が述べやすいかと思います。</p> <p>併せてですけれども、先ほどスクールソーシャルワーカーということが出ましたが、この書きぶりも、何名配置したとか、何回開催したとかいうことになっているのですけれども、質の問題として、このような効果があったとか、担う方々の専門性とか、資格や実務経験がきちんと担保されている等、そのような事まで合わせてまとめていただくと、進捗が非常によく分かり、論点が明確になるとと思いますので、その辺りをよろしく願いいたします。</p>
安部委員長	中島委員。
中島委員	<p>大分商工会議所の中島です。どうぞよろしく願いいたします。今、丹羽委員が言われたことに関連するんですけれども、まさしくですね、何十億円が改善したことに加えて、毎年毎年借金がどう増えていくのか、減っていくのか、それに加えて評価、進捗状況を把握するにあたって、丹羽委員がおっしゃられたように、あまりにも大まかすぎるのかなと。43%いっているから、おおむね良い進捗だとは言えるんだと思いますけど、上手くいっているところと、上手くいっていないところがあるんだろうと。もし、全て上手くいっているのならば、それは目標の立て方があまりにもイージー、簡単すぎるのだろうと。そういうことになるのだろうと思います。そうするとですね、良いところ、悪いところを少し分かるように、何かしら評価できないのかと思います。</p> <p>5つの方向性を立てておられるので、5つの方向性毎に推進プログラムが5つとか10とか20とかあると思いますから、それぞれのプログラムが上手くいっているのか、上手くいっていないのか、全部定</p>

	<p>量的では難しいでしょうから、定性的でも結構です。まあこれはいい方向に向かっている、これは難しかったとか、○△×でもいいし、数字でもいいし、そういったその方向性毎に、このプランをこういうような進捗になっているとか、上手くいっていないところがどこなのかとか、そういったところをもう少しまとめられると、前向きな議論ができるのかなと思います。</p>
安部委員長	<p>今の点に関連して何かありませんか。今回、委員会の第1回で、なかなか行政の方々も資料作りについて、苦勞されているかと思いますが、私たちの任期は2年半ありますので、来年度等について、資料の作り方も含めて、御検討いただければと思います。</p> <p>池邊委員。</p>
池邊委員	<p>大分合同新聞社の池邊でございます。今のお話があった資料の作り方に関連し私からも1つ提案があります。事前にいただいた資料は今まで各プランに取り組みられた実績と、その実績をベースとして更に見直し案などを盛り込んだこれからの取組や、計画などが多岐にわたって詳しく説明をされており、大変わかりやすいものでした。ただ、新たな取組や計画を作る際に、前年の実績を振り返って「課題」や「問題点」の洗い出しをされたと思うのですが、今後その部分についても資料にしっかりと「見える化」していただければと思います。</p>
安部委員長	<p>丹羽委員。</p>
丹羽委員	<p>資料の件があったので加えて。委員会の事前資料として「行政改革推進プラン2018」をいただいたのですが、21ページから37ページまでに、それぞれの施策と推進プログラム～年度計画が表化されているのですが、2018年から2022年までが実施も検討も、分けずに合わせて、同じように5年間分横に棒線が引っ張っているだけなので、何がどう実施、検討されているのか読み解けませんでした。この表も検討される時期、実施される時期があると思うので、新たに作成時には工夫して下さるとありがたいと思います。</p>
植松委員	<p>植松です。私はちょっと違う感想を持ってまして、いろんな多岐に渡る改革推進の計画の中、これを全てを統一的に指標で表すとした場合に、改善額という形で集約させていたのはすごいなと思って拝見し</p>

<p>安部委員長</p>	<p>ていました。</p> <p>確かに金額で落とし込んでいくと、どうしても KPI 的なところが途中で落ちてしまっ。例えば電子化の推進みたいところは、ゆくゆくは窓口業務の効率化を通じて行政サービスの効率化につながって、費用の圧縮に至るというところにあるんでしょうけれども、そこに至るにはステップがあって、効果が発現するまでに結構時間がかかってしまうと。そこまでを KPI 的なもので補っていきながら、評価をするっていうのがあるのかなと。</p> <p>個別の項目では出てるんですけども、全体としての KPI 評価的なものは表現しにくいなと思ったものですから、無いのかもしれないのかなと思いつつ、そこもメッセージとして出せるといいのかなと、そう思いました。以上です。</p> <p>今の資料とか分析の仕方等について総括的な御意見が出ていますが、その点に関しては来年度以降の課題としていただいて、個別的な問題についての御意見等はありませんか。</p> <p>渡邊副委員長。</p>
<p>渡邊委副委員長</p>	<p>大分大学経済学部の渡邊と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。これまで言われていた大きなところの話がありましたが、個別の部分でいくつか質問をさせていただきます。</p> <p>私、今回初めてこの委員会等に参加させていただきますので、的外れでしたら申し訳ございません。</p> <p>こういった目標を立てられて、無駄取りといいますか、必要が無いところを削っていかれるところは本当に大変だったと思います。お疲れ様ですと申し上げたいです。その中で、数字に表れない部分を質問させていただきます。</p> <p>行政改革推進プラン、事前にいただいた資料についてです。質問は3つございます。整理番号9番、23 ページのところからなんですが、例えば市民とのコミュニケーションが促進されていくという中で、ふれあい市長室やアイデアの提案制度等あるんですが、この中で、具体的に数字には表れないものの、こういう形で所内のモチベーションが上がった、市民全体の変化があった、あるいはどういう形でのワークショップの活用などによって、具体的にこういう意見があったり、こんなアイデアがあって、そして変化がしていったところを、形としてなんでもいいのですが、教えていただければということと、それから</p>

	<p>例えばワークショップなどについても恐らくこれから世代間を越えた、例えば若い人だけのみならず、高齢の方々も含めて、世代間を越えていろんな話し合いの場が必要になってくるでしょうし、あるいは市民からの斬新なアイデアなども必要になってくるかと思うのですが、その計画等についても、これはもしかしたら後半部分の話になってくるかもしれないのですが、何か具体的にあれば教えてくださいということが1つ目です。</p> <p>それから、2つ目、これは少し数字的な部分が出てくる中で、収入の部分なんですけれども、ネーミングライツ等なんですけど、要するに稼ぐ部分、こういう言葉を使っていいのかわかりませんが、稼ぐという部分において、例えばこれからどのように力を入れていこうとされているのか、あるいはこれまでの財源を確保するに当たってどんな工夫をされて、どんな姿勢で、どのような形でアプローチをされていたのかという所を教えてくださいだと思います。それに関わって、例えばクラウドファンディングに関して、62ページなんですけれども、検討を行ったという形になるんですが、この分野の、これからの大きな方向性に関して、これまでの取組の中で何か見えてくるものがあたら教えてください。</p> <p>3つ目、人材育成に関してなんですけど、未来創造塾についてです。職員さん達が集まって、若い方々を中心とした、未来創造塾。そこからいろんな改善の案ですとか、内容、アイデアが出されたということで、成果が出たと思うんですが、それがどういう形であったのかということをお願いいたします。以上、3つです。</p> <p>それではまず1つ目の整理番号9の市民のコミュニケーションの推進に関連する質問について。</p> <p>では、市長からお願いします。</p>
安部委員長	
市長	<p>御質問ありがとうございます。</p> <p>まず、ふれあい市長室ですけど、地域の皆さんに集まっていただいて、私の方から課題を話していろいろ御意見をいただいているんですけども、そんな中で地域まちづくりビジョンとの関係で、良かったかなと思いますのは、これもいろいろ評価があると思いますが、大体13地域で十数人の方に委員になっていただいて、そこで地域の課題を話して、整理して、地域で取り組むこと、個人で取り組むこと、そして行政に委ねることに分けて議論していただいたんですけど</p>

	<p>も、集まっていた方はですね、それぞれ地域の代表ということで、若い方はPTA会長さんとかが30代とか40代前半の方で、そして、年配の方は老人クラブの会長さんとか、そういうかなり高齢の方に入っていて、一言で言うとかかなり若い方から年配の方まで、そして男女の比率も割と半々ぐらいだったと思うんですけども、そういう地域でいろんな活動をされている方で、顔は見たことがあるし、名前は聞いたことがあるんだけど、今まで話したことがないという方々が一堂に会して、十数人ぐらいがですね、4回から5回ぐらいだったと思いますけど、それぞれの地域の課題を議論していただいて、さっき言ったように3つの分類で整理していただいたと。そういう、いろんな議論ができる場ができたということが1つ良いことでした。そしてまちづくりビジョンの提言書ができ、今後もですね、このグループで、さらにフォローアップ会議という形で議論を深めていただきたいという話をさせていただきました。そんな中で、プライオリティをつけながら、鶴崎のまちづくりで公民館をどのように直していくのかとか、具体的な課題がいくつかあって、実行できているものもあれば、これからのものもありますけど、そういうことがある程度共有できて、またこのふれあい市長室の中で、その議論をまた地域の方にフィードバックと言いますか、この議論がされていて、こういうふうに進んでいますよという話ができただけが、割とよかった事なのではないかなというふうに感じています。</p>
安部委員長	<p>それでは、2つ目のネーミングライツ等の収入のお話、どなたか。はい、企画部長、お願いします。</p>
企画部長	<p>企画部の伊藤でございます。ネーミングライツにつきましては、今企画部所管の3施設で導入しております。1つは駄原、そしてホルトホール大分、そして今年度から大分市の所管になりました大洲の体育館。この3施設について、それぞれ導入しております。</p> <p>ネーミングライツをどのタイミングで入れるかは、それぞれの施設において、最も効果が高いタイミングを計りながらやっているというふうに考えております。例えば駄原ですと、グラウンドが整備されて新しくなってリニューアルしたタイミング。このタイミングで募集を致しました。現在他の施設についても、ネーミングライツの募集については検討をしているところでございまして、それぞれ一番効果が高いタイミングを見極めて募集をしたいと考えております。以上です。</p>

安部委員長	<p>3つ目の人材育成の関係で、未来創造塾の効果がどう発揮されているか。</p>
企画課長	<p>企画課長の小野でございます。未来創造塾に関して、解説をさせていただきますと思います。</p> <p>大分市を中心とした周辺市町村との連携で連携中枢都市圏構想に今取り組んでおります。これは国が示す新たな広域連携の形でございます。これは、大分市を含めて8つの市町で今広域連携を進めているのですけれども、若手の職員さんに各市町で抱える課題等を持ち寄っていただきながら、時には現地に出向き、いろんな市町の状況を確認しながら、昨年立ち上げた未来創造塾でございますけれども、現在子育ての部分とか、企業誘致の部分とか、やはり交通ですね。今後周辺地域も含めた部分の交通の課題等を拾い上げて、新たな施策でどういことができるのかというところを今現在検討をしております。</p> <p>最終的には2年で1つの提案を出していただこうということにしておりますので、今年度秋にはですね、各首長さんの前で御報告をできるように今進めているところでございます。次世代の行政職員の育成というところで、未来創造塾を開催させていただいております。以上でございます。</p>
安部委員長	<p>他に意見等はございませんか。</p> <p>江口委員。</p>
江口委員	<p>江口といいます。私はちょっと角度を変えまして、コロナ後の行革拡大ということで、いただいた資料の12ページですね。</p> <p>1の3はですね、窓口サービスのところはリモートですね、市民と市役所の窓口が密接に結びつかないことですね、それから4の1のところでは、内部事務効率化でデジタル化とオンライン化を進める。またウェブ会議のシステムの導入。それから5の1、働きやすい職場環境は、押印や対面の原則の見直しや、テレワークを導入する。</p> <p>今どうですか、これ。市役所でどの程度やっているとか。国との関係がありますが、いずれにしても随分変わる話で、環境は変わるんですけど。そういうことで、大分市がモデルになるようなケースになって欲しいと思います。その辺はどうでしょうか。</p>

安部委員長	コロナ対策としてのウェブの利用ですね。利用状況とか。 企画部長、お願いします。
企画部長	企画部の伊藤でございます。 押印対面の見直しにつきまして、コロナウイルスの対策ということで、できるだけ人に会わずに手続が済むようにということで、大分市でもその取組について、取り掛かったところでございます。 ちょうど先日7月7日付でございますけれども、総務省の方から、内閣府に設置された規制改革推進会議の資料をいただきまして、地方公共団体においても、書面規制、押印、対面規制の見直しを十分進めるようにという御指示をいただいているところでございます。今、庁内に各手続について調査を行おうとしておりまして、調査がまとまり次第、1つずつ見直していくという手順で検討しているところでございます。
江口委員	ありがとうございました。
安部委員長	何か御意見はよろしいでしょうか。
江口委員	いいです。
安部委員長	その他、他の方、コロナ後の関係等について、御意見とか御質問があれば、関連した形でいただければ。
石井委員	今後の取組方針の説明をしていただいてからでいいですか。
安部委員長	はい。他には。 佐藤委員。
佐藤委員	ニッコンの佐藤と申します。よろしく願いいたします。 3ページ目にあります、先ほどから出ておりました、スクールソーシャルワーカーの件の関連で、2つ御質問と意見があります。 1つは、私の娘が中学校に通っているんですけども、今その小中学校の不登校が10人に1人と言われている時代です。学校側も、その辺りをナーバスに捉えていて、いろんなところと連携をしながら、各家庭との情報共有であったりとか、サポートをしているという現状

	<p>があるんですけども、その中で先般、保護者の集まりがあった時に 出た内容で、オンライン授業のですね、文科省が推奨している「すら ら」というものがあります。このオンライン授業の「すらら」という ものは、文科省としては、出席扱いになるということで貢献していま すと。ただ、これはちょっと県外の事例なんですけれども、当事者の 保護者が、各中学校の先生にお願いしたところ、「知らない」と、そ もそもそういう情報が落ちてきていないということになって、当初は だめだという状況だったんですけども、いろいろ熱心な交渉を重ね て、結局はそこの学校のみ出席扱いになるということになったみたい です。それを聞いた大分在住の不登校の悩みを持つ中学生の親御さん が、学校に相談したところ、同じ事例で、「知らない」と、事例がない のでうちは対応はできないということになったみたいです。文科省と しても、それを出席扱いとするというふうに許容がされているツール であるにも関わらず、各教育機関において、その辺りの選定も無駄で あったりとか、一定基準というものが見えづらいということが保護者 の方から意見がありましたので、この場で言うのが最適なのかどうか 分からないですけど、一応御意見と、この辺りどういうふうな、今状 況になっているかをお聞きできればというのが1点あります。</p> <p>もう1つが、ソーシャルワーカーさん。今凄くニーズ高まっていて、 人材不足とも言われているとお聞きしているんですけども、その中 で2020年度は統括スクールソーシャルワーカーを配置するというこ とで書かれていますが、その中で例えば統括されるスクールソーシャ ルワーカーさんはしっかりと地域の医療であったり、ホーム、また状 況によっては、警察であったりという予防連携がしっかりと図れてい るのか、その辺りを質問をさせていただきたいと思います。よろしく お願いします。</p> <p>今御質問のあった、スクールソーシャルワーカーの配置、オンライ ン関係の出席の扱い等の問題なんですけど、まず、どなたか、お答えで きる方がいれば。</p> <p>教育部長、よろしく申し上げます。</p> <p>まず、スクールソーシャルワーカーですが、先ほどもお話しいたし ましたが、福祉部門とつないで、子どもだけでなく、保護者とも寄り 添いながら、課題を解決していくという方向で現在業務を行っており ます。昨年度までは、東部、中部、西部3エリアに分かれて、それぞ</p>
安部委員長	
教育部長	

	<p>れ主任ソーシャルワーカーを置いて、取組をしていたんですが、その3エリアの取組を一元化し、課題の解決や情報共有をするために、統括ソーシャルワーカーを今年度配置したところでございます。それにつきましては、警察なり、医療機関などの関係機関と、何かあったときには、必ず連携するようしております。</p>
安部委員長	<p>オンラインの関係はいかがですか。 教育長、お願いします。</p>
教育長	<p>オンライン授業でございますが、自宅にいての学習を、出席とみなすということでございますけれども、これは確かに国が進めております。フリースクールも同様でございます。ただし、学習指導要領に沿った学習が成されているということが確認をできた場合や、校長が学習内容を確認をした場合には出席扱いにするということであり、以前に比べて柔軟に対応しているところであります。</p>
佐藤委員	<p>ありがとうございます。まずオンライン授業に関してはありがとうございます。</p> <p>各地域の校長の方々がその情報をしっかり持って、そのガイドラインがしっかりあるということは存じあげているんですけども、その辺りがムラのある基準であったりとか、それこそ知ってる知らないというところがあると、やっぱり保護者の不満というのでも出てくると思うんですけど、今の話を聞いて安心いたしました。ありがとうございます。</p> <p>ソーシャルワーカーに関しても、一番やっぱりネックとなるのは、利用したいと思う保護者が迷子になることです。どこに尋ねていいかわからなくて、市の管轄窓口に行っても、たらい回しにされるというところも常にあることだと思うんです。せっかく総括という名前のいろんなマネジメントであったりコーディネートができる役割だと認識していますが、この方がいらっしゃるということをしっかり市民に周知徹底を図っていただいて、不登校だけではなく、発達であったり、家庭環境であったり、様々な問題を抱えている保護者が迷うことなく、最適な方に相談ができるように図っていただければと思っております。ありがとうございます。</p>
安部委員長	<p>今の意見に関連して。丹羽委員。</p>

丹羽委員

今のと関わりまして、住民の皆さんが問題毎に別々の窓口に行かなくて済むように、現状改めてワンストップで対応する、断らない相談窓口の設置を厚労省が進めていますよね。対象となる「支援を必要とする人」の60%の方々が問題を2つ以上、それから34%の方が3つ以上の問題を抱えている。それに加えて時間の経過と共に、問題が変わったり、抱える問題が増えたり変わったりするということで、伴走型支援をするということの方向性は出ていますけれども、大分市においての、断らない相談窓口の設置の進み具合と伺いますか、その辺のところをお答えいただければ、有り難いなと思います。

先ほど委員がおっしゃったように、アナウンスの問題で必要とする方々に伝わっていないといけないんですよね。繋がらないんですよね。

アナウンスの課題として、先日の大雨災害時、私どもの法人内の事業所が玖珠町にもありまして、実際に障がいのある方が、4日間ほど避難所に避難しました。避難所から、福祉避難所へ移行するまでには至らなかったのですが、川の氾濫等になりますと長きにわたる避難となり福祉避難所に移ることが想定されます。先ほどから出ているように、数値目標のマジックで、到達しているから大丈夫だということではなくて、福祉避難所が本当に機能するかという検証が必要。夜間の体制が取れていない、お風呂もない、広く横になれる場所も無いような通常の通所施設も指定されている経緯もありますので、福祉避難所として本当に機能が担えるか、きちんと担える方々がいるかということの検証は、この頃は50年来とかいう水害が毎年起こるような形になっていますので、日々の問題として、検証を早急にする必要があるのではないかと。また、今回の災害では夜中の12時、1時くらいまで、川の氾濫の危険性を知らせるアラートがかなり鳴りました。すごい音で。それはもう警報ですから当然ですけど。障がいのある方たちと親御さんたちは、アラームは自分で設定するから覚悟があるんですけど、アラートは本当に不意に突然鳴り始めるので、そこで目が覚めてしまって、「怖い怖い!」となったと。ただ、スマートフォンを見てもどこに行っているのか分からない。その先の情報が繋がるどころが今回無く、翌日は睡眠不足の方が結構いました。計画の中で数値目標を達成しているような形でも、その中身の問題として、機能できるかどうか今回いい課題が突き付けられているのではないかと思います。お小さい方からお年寄りまでの、非常に課題を抱えて支援を必要とさ

<p>安部委員長</p>	<p>れる方々の問題というのは、多岐に渡りますので、お尋ねします。</p> <p>それでは、相談窓口の集約化の問題、その広報、実際に動くかどうかの検証について、どうですか。</p> <p>福祉保健部長。</p>
<p>福祉保健部長</p>	<p>福祉保健部の斉藤でございます。</p> <p>先ほどですね、丹羽委員が言われように、令和2年6月5日に成立した地域共生社会の実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律が施行されたということで、相談支援とか参加支援、地域づくりに向けた支援を実施するために創設されたということでございます。</p> <p>現在本市では、国が示すような事業の実施に向け、相談支援の配置、中核部署の設置、身近な相談窓口である地域包括支援センターなどの専門機関との連携強化などについて検討し、複合的な課題に対応する支援の強化を検討している途中というところでございます。実際に今、そういう話し合いを、課をまたいで協議を行っているという状況でございます。それと、先ほどの避難所の件でございます。今回の災害で、市内では124の避難所がありまして、108の避難所を開設いたしました。当時市内71の福祉避難所の開設依頼をしたところでございます。福祉避難所に関しましては、私どもはいわゆる介護事業所との協定でもって避難所を開設してもらっていて、どれぐらいのキャパの人数を、今回は避難させることができますかという回答を、まずいただきます。その中で得られた人数で対応してもらおうのですが、今回に関しましては、福祉避難所に1名だけです、避難しました。ということで、必ずしも福祉避難所が機能していないというわけではないという現状で、賛否両論あるとは思いますが、今後福祉避難所は随時71から広げていきたいと思っております。</p>
<p>丹羽委員</p>	<p>機能するかという問題の見直しはとても重要だと思っております、その辺りお願いしたいなと思っております。災害時には、救急な対応として、適切な方を適切な場所へ適切な時間内にと実施されるDMA Tがあります。私ども福祉現場は、別の課題を非常に大きく感じています。災害時要支援者が長きに渡る避難をする場合です。大分県は、災害派遣福祉チームDCATが設置されています。その大規模災害時活用障がい種別や、配慮が必要な御高齢の方たちの様子で、どの福祉避難所が向いているかというところまでの振り分けをできるようなチー</p>

	<p>ムもできてます。県と市との連携の中で生かされればと願います。実際に、今回の災害時に福祉避難所の利用が先ほど1名とおっしゃいましたけど、求めている方はもっといたんですよ。ただ、繋がらなかったという。情報を得るすべが無かったというのが、現実の話なので、そこを繋げていただくとありがたいなと。福祉事業者も一緒に参加して、考えさせていただきたいと思います。</p>
福祉保健部長	<p>分かりました。今後も検討させていただきたいと思います。</p>
安部委員長	<p>その他、何かありませんか。御意見、御質問等があれば。 お時間の関係もありますので、第1部はここで終了させていただきます。続きまして議題2、大分市行政改革推進プラン2018の今後の取組方針について、事務局の方から説明をいただきたいと思います。事務局お願いします。</p>
行政改革推進室長	<p>それでは、議題(2)の「大分市行政改革推進プラン2018」の今後の取組方針について説明させていただきます。資料の11ページをご覧ください。</p> <p>現在「大分市行政改革推進プラン2018」は5年の計画期間の中間年度を迎えているところでございますが、加速化する少子高齢化や人口減少に加え、この度のコロナウイルス感染症への対応等を通じた社会情勢の変化はめまぐるしく、市民サービスの向上や事務の効率化といった行政改革の分野においても新たな視点での取組が求められているところでございます。</p> <p>四角の2つ目に記載しておりますように、コロナ対応においては、本市でも各分野の相談窓口を拡充し、多様な主体との連携が重要であるという認識の下で、様々な関係団体等の協力をいただきながら官民一体となって危機に立ち向かっているところでございます。</p> <p>また、四角の3つ目にごございますように、今後しばらくはコロナウイルスと向き合っていく必要がございますが、そのような中で、行政改革の視点からは、先ほどもございましたが、行政手続等における押印や対面の原則の見直しといった簡素化や、デジタル化に向けた社会的要請が高まっているところでございますので、本市といたしましても、これを進めることで、市民目線での利便性の向上と行政内部の事務の効率化の両側面から行政改革を推進してまいりたいと考えております。</p>

<p>安部委員長</p>	<p>次の、12 ページでは、現在の行政改革推進プランにある推進項目及び推進プログラムと、今後の取組の方向性について整理したものでございます。窓口サービスの利便性の向上など市民サービスに直結する部分や、民間団体等との連携協働を推進していく部分もございませうことから、本日委員の皆様にも市民の代表、団体の代表として、今後の本市行政改革の取組の方向性に関し貴重な御意見をいただければと考えております。議題2 についての説明は以上でございます</p> <p>事務局から説明がありましたが、御意見や御質問等があれば。石井委員、お願いします。</p>
<p>石井委員</p>	<p>中小企業診断士の石井でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>この行政評価・行政改革推進委員会、ベースとなっているのは、先ほどからお示しいただいているような冊子ですね。行政改革推進プラン 2018、これがベースというふうに伺っております。先ほど、コロナの話が一部出ましたが、これを策定した当時は恐らく、コロナのことは想定外のものであったらうと思っております。それは私も全然想定外、インフルエンザのことはもちろん BCP の中でいろいろやってたんですが、コロナは全くの想定外でございました。それで皆さん今、中小企業者は非常にお困りの状況でございますが、まず1つ質問としては、この策定当時に想定していなかった事態への対応、これを今からどのように考えていくのか、それは場合によっては、この計画の中に補完的に追加する必要があるんじゃないかならうかなというふうに思っているんですが、例えばまちづくりの考え方とかですね、コロナ時代のにぎわいって何なんたらうとかですね、そのような補完的なものが必要になるのではないかと思っておりますが、そこをどのようにお考えいただいているのかというのが、まず1点でございます。</p> <p>それから、今大変いろいろな事が言われております。例えば集中化の時代は終わって分散にいきましょう、大都市を分散していきましょう、食べ物やエネルギーも地産でいくのが大前提ですよとか、ヒューマントレーサビリティの問題。例えば公共施設を使う時には、健康状態証明を出さなければ公共施設の中に入れない、厚生労働省さんもやられていますが、例えばダウンロードして、近くにいるとアラームが鳴るといような、そういうトレーサビリティ。非常に問題が多いとは思いますが、そういう時代が来るのではなからうかとか。まあニュ</p>

	<p>ーリアリティの問題、いわゆるオンラインとオフラインが融合してしまうというようなところもあろうかと思います。</p> <p>我々が、支援をさせていただいている企業さん、やっぱりオンライン通販に移行しなければならない。ところが、なかなか置き配というものができない等の問題があって非常に苦労されている。そういうところに対する支援のあり方といいますか、そのへんのところ、どういうふうに考えられるか、すなわち大分市としてのコロナ時代の、アフターコロナ、ウィズコロナのまちのあり方というものをどのように想定をされていくのだろうか、その想定の中で、おそらく新たな施策、対策等が出てくるんじゃないかなと思ってるんですが。なかなか難しい話だと思うんですが、この辺はどういうふうに思われているのかなと。</p> <p>建築業者さんもよく言うんですが、以前、高度成長期の時に LDK とかも出てきました。3LDK、2DK とかですね。LDK が出てきて、今から恐らく LDWK が出てくるだろうと。リビング、ダイニング、ワーキング、キッチンが出てくるだろうと。先ほどのテレワークですね。そういうものを、例えば PFI を使いながら、大分市の中で開発をしていく。そうすると、そこに人がまた集まり、緩やかなにぎわいができる。緩やかといいますか、適度なにぎわいができる。そういうまちづくりも考えられると思うんですが。大分市としてのまちづくり、2 番目の質問は、大分市としてのウィズコロナのまちづくりの方向性。そこら辺のところをお尋ねできればなというふうに思います。よろしくお願いします。</p>
安部委員長	<p>いろいろな分野にわたるとこだと思いますが、まずコロナ後の町のあり方をどういうふうにイメージしているのかという点と、今回の委員会の問題でいくと、プランの補完等をどうするのか。当時策定されていなかった、当時予想できなかったことについてどう変更するのかという点の 2 点、お答えいただければと思いますが、いかがですか。</p>
企画部長	<p>企画部長。</p> <p>企画部の伊藤でございます。</p> <p>まず、行政改革推進プランの想定を超えるような今回のコロナの事態、まさにそのとおりであろうと思っております。行政改革推進プランにつきましては、かなり広い範囲で計画を策定しておりますので、時々の時代の情勢、いろんな問題について進めていく力点が少し変わ</p>

	<p>る、もしくは内容について工夫をしながらのプランを維持しながら、進めていくというやり方がまず考えられるというふうに思っております。現在はその中で、できることを模索しているという状況でございます。ただ、この状況、ずっと続いて、現在の行政改革推進プランで対応できないということになりましたら、当然、このプランの見直しについても、検討課題として挙がってくるというふうに考えております。現在のところは、プランの見直しという議論には、まだ至っておりません。この委員会の中で見直すべきという議論をいただきましたら、それを受けて、また検討するような流れになろうかなと考えております。</p> <p>それと、まちづくりの方向性ということでございますけれども、総合計画を所管しております企画部という立場から申しあげさせていただきますと、この総合計画についても、かなり広い範囲で、いろいろなまちづくりの方向性について規定しております。同じように、今の計画の中で、この非常時を乗り切れる範囲で計画を進めていくというのを、まずできるかできないか、これも今模索しているところでございまして、基本的にはこの計画を細かく修正するというのは、安定性の観点から好ましくございませんので、できる限り、現在の総合計画の方向性に従いながら、必要なところは見直しをする、若しくは時代が大きく変わって、これまでの計画を維持できないという状況になれば、また市民の皆様にご意見を聴いて、計画を練り直す作業になろうかと思っております。総合計画につきましては、策定まで2年、通常かかりますので、少し長いスパンが必要になります。見直しをするに至りましても、今すぐに計画を変更するとか、まちづくりの状況を動かすというような状況にはないかなと思っております。以上でございます。</p> <p>いいですか、せっかくですので。コロナの大分市の取組ですけれども、今まで2つ掲げてまして、コロナに関連して重篤者を出さないというのが1つ目です。医療体制をしっかりと確保するためのPCRの検査の能力を高めるとかですね、それからコロナにかかった人以外で病院が怖くなって、他の病気を持っている方が病院に行けずに病状が重篤化するとかですね。若しくは経済的な面で行き詰って、これは死ぬしかないといったことにならないようにという意味でも重篤者を出さないようにするというのが1点目です。</p> <p>もう1つは、このコロナの影響によって、市内の企業が倒産することが無いようにすること。今まで順調に、健全に経営されていた方が、</p>
--	--

市長

コロナの影響によって突然ですね、成り立たなくならないようにするために、必要な支援措置をしていこうと。そしてこのような取組を進めることによって、新型コロナを制圧して、できるだけ普段の生活を取り戻そうという言い方をしております。つまり言いたいことは、これによって、都市のあり方がすっかり変わったり、新しい生活様式とか言ってますけど、これがいつまでも続くと、例えば会食がいつまでもできなくなるとか、トリニータの応援をみんなでラグビーワールドカップの時のようにできなくなるような、そういう世の中になるということを前提に取り組むのではなくて、またああいう事ができるようになるよう、しっかりコロナを制圧するために、その間にですね、いろんな取組をしていこうという考え方でやっております。

もう少し言いますと、やはりこういう感染症とか、あるいは災害に強いまちづくりが重要になってきますので、例えば今回の支援措置の中で言うと、飲食店等での、アクリル板の設置とかですね、あるいははまだ発表しておりませんが、ホテルやそういうところですね、入ってくるときに、今病院なんかでよくありますけど、体温を測るためのモニタリングがありまして、画面に映って自動的に体温を測れて、入ってくる方は体温が一定以下の方であるというのが確認できる取組とかですね。

それから、大分市のベンチャービジネスで、紫外線の発生装置を作る企業さんがいますけど、そういうものを取り付けられるところは、できるだけ取り付けて、そして空気が回ってくる中で、コロナのウイルスが発生しても、不活性化するような、そういう衛生的な装備をできるだけ進めるための支援措置をしようとか。そのようなあり方によって、感染症とか、災害に強いまちづくりというのが新たに加わってくるような。そういう取組をしながら、さっき言いましたとおり、感染した方が新たに出た時には、後が追えるような、感染の拡大に防止に必要な情報を積極的に公表する取組をしていくことによってですね、感染症を出した店を罰するという意味ではなくて、そこから先をしっかりと取り組むことによって、感染が拡がらないようなまちづくりをしていって、予防薬ですとかワクチンとかができてくるまでですね、何とか頑張っていこうと。そして、そういうものができれば、インフルエンザとか、他の病気と同じような位置付けの病気になるわけですから。そして、今までと同じようないろんな楽しみ方がありますとか、生活ができるようなまちになるまで、いろんな取組をしていこうというわけでありまして。

	<p>コロナ後にすっかり世の中が変わってしまって、違う形のいろんな制約がかかった生活に移行していくんだという考え方はやめましよう。</p> <p>もう1つ言いますと、さっき言った衛生的な資本装備と同様に、例えばGIGAスクール構想、先ほども少し御質問いただきましたけど、オンラインでできる勉強はできるようにしたほうがいいんじゃないかとか。</p> <p>それから、10万円の定額給付金というものがありましたけど、これはスピード競争するのはどうかと思いましたが、48万の都市の中でいうと、全国的に少なくともトップクラスのスピードでお届けできるような取組をすべきじゃないのかとかですね。そういうことをやっていくときに、やはりマイナンバーと議論されておりましたけど。通帳の口座がですね、リンクされていないので、1回1回全部チェックしないといけないです。かえって紙で出していただいた方のほうが、処理しやすいような状況で。ただそれでも、オンラインのほうで早くもらいたいというような方もいらっしゃるの、こっちもしっかりやっっていこうということで。そういういろんな課題が出てきますので、その中でやっていくべきことをやっっていこう。ただ新しいところに、違うところに着地するべきではないのではなからうかという、そういう議論です。</p> <p>もう1つ、石井委員がおっしゃった中で大事なことというのはですね、東京で生活された方、満員電車の中で毎朝1時間、おしくらまんじゅうしながら暮らすっていうのは、そもそも人間的ではないですねっていうのは、そのとおりじゃないのかなと思います。そして、地方の良さが見直されていると。こういう時期にやはり、大分のような都市というのは、その受け皿としてですね、より多くの方々に大分に住んで、ビジネスもオンラインで十分できるというですね。そういう発見をしてもらえるような都市づくりが大変重要じゃないかと感じております。その先を考えるとですね、大都市の東京圏とか大阪等ですね、ビジネスで何回か顔を合わせないといけない。その時に4時間もかけて行くのは大変だなと。座って3時間で行けるような、そういうインフラというのも将来的に考えると、大変重要だということで、豊予海峡ルートで、大分と新大阪が大体2時間でつながりまして、新大阪と東京が1時間でつながります。これはまあ、将来の話になりますけれども、そういうふうな事も含めて、新しい地方の役割を担えるような取組というのが、ますます必要性が高まったんじゃない</p>
--	---

<p>安部委員長</p>	<p>かなと。これは先の話になりますが、このように感じているところがあります。</p>
<p>石井委員</p>	<p>石井委員。</p> <p>ありがとうございます。私もですね、見直す必要は全くないと思ってまして、それよりもスピード感を持って追加的施策が必要だろうと実は思っております。</p> <p>先ほど市長がおっしゃられたように、コロナの後、これは戻るんだという方と、戻らないという方と、大きく議論が分かれているような感じだと思います。政府の西浦さんとか、それから山中さんとか、あのへんの方は戻らないとか言われていますし、コロナも突然変異をしていくでしょうというような話を聞いておりますけれども。そういった中で見直すのではなく、追加施策、先ほどおっしゃられていたような、福岡でやるんじゃなく、大分の方がより安全だよね。だからここで、大分をいかにアピールしていくかということがすごく大事だなと思ってまして、そのための追加施策みたいなものを何か入れると非常にいいのかなという、提案といいますか意見でございますけど。そうした中で持てる施策というのは、一時的な今のこの状況を乗り切る策と、それと少し中期的に考えていかなければいけない策とに分かれるんだろうと、アフターのところに分かれるんだろうというふうに思っております。その絵姿を事業者は結構待っていると。どういうふうやっていくんだろうということを待っているようなところがありますので。大分の中でテレワークで本当に仕事ができ、全然外に向かっていけるんだという絵姿を示すと非常に分かりやすいんだろうなというふうに思っております。そこのところの姿をこの中に、変な話、大変な作業にならずに追加するかっていうことになるんだと思いますけど。これ全部を見直すのは、全然と思っております。是非そのところを検討いただければと思っている次第です。</p>
<p>中島委員</p>	<p>私の方から、見直しをしたらどうかというところと、市長の方からデジタル化等をどんどん進めていくというお話もあったところで、是非そこを全国の中でも、突き抜けてやっていったらどうか。</p> <p>どこに行くのか、どこを選ぶのかという話になってくるんですけども、まあ東京の人から見ればですね、地方はどこも田舎でね、ああ過ごしやすいなど。南は暖かいし、北は雪があつていいなど、この程</p>

	<p>度しか多分考えてないと思うんです。そこに大分として価値を置く、問いかけていくかというところで、例えばデジタルファースト宣言をしっかりとやって、自治体の生産性向上、市の内部の生産性向上はもちろんですけど、それに加えて、まちづくり、地域産業、あるいはイノベーションも含めて、デジタル化を徹底的にやっていくというところを全国に向かって高らかに発信して、そして実際にそれに取り組んでいく、成果も出していく、ということをして是非やっていただきたいというふうに思います。今までですね、DX デジタルトランスフォーメーションとか、デジタルシフトとか言われていて、なかなか大企業でもできてないんです。だけど、コロナの中であって、本当にそれをやろうとしているところがどんどん出てきてる。そういうところも出てきてる中で、大分もそういった面で頑張っていたらいいかなと思うのが1点。</p> <p>もう1点、市内のコロナの関係で、企業が倒産しないように目指すというところ、本当にこれはよろしくお願いをしたいと思います。先の日銀の短観だったと思いますけど、D.I.でですね、マイナス100という業種があるんですよ。確か観光サービス業だったと思いますけど。マイナス100なんか見たことないと思うんですけども、そういった企業の景況感、これからどんどん悪いところも顕在化してくると思いますので、コロナ対策、事業者対策というところで、機動的な予算、事業に取り組んでいただければと思いますので、よろしくお願いをします。以上です。</p>
安部委員長	<p>今に関連して、御意見、御質問等ないですか。</p> <p>はい。ではどうぞ。</p>
商工労働観光部長	<p>ありがとうございます。商工労働観光部長の永松でございます。</p> <p>事業者に対するコロナ対策については、融資から家賃制度まで大分市は独自のものを進めてると思ってるんですけども、特に融資等に関してですね、今後の対応が非常に大事だというのが、経済常任委員会、議会の方からも指摘を受けておまして、石井委員が中小企業診断士ということで、今後商工会議所と中小企業診断士協会等を含めて連携をしていきながら、対応していかないと悪いというふうに考えております。これまで出ておりますいろんな提案につきましては、市の総合計画というよりも、商工業振興計画がまた見直しの時期にきておりますので、そういったところも含めて今後検討していきたいと考え</p>

安部委員長	<p>しております。</p> <p>中島委員。</p>
中島委員	<p>すみません度々。融資というお話でございました。それも大変ありがたいし、商工会議所としても一生懸命取り組んでいるのですけれども、やはりこれだけ消費が冷え込んでくるとですね、消費喚起というところをですね、もっと考えないといけない時期にきているんだらうと思います。そういった面でも、是非大分市の取組に期待をしておりますし、お願いをしたいと思います。</p>
安部委員長	<p>他に何か御意見はありませんか。長崎委員。</p>
長崎委員	<p>今後の取組方針について、お尋ねしたいんですけど。今後の取組方針の中で、テレワークの導入の検討というのがありまして、コロナ禍ということで、全国的にはやむを得ず、なし崩し的に始まったという点があったんですけど、大分市役所ということになってきますと、市民との対面の仕事があったり、情報管理上、コンピュータの操作を市役所でしないといけないということがあって、なかなか難しい面があると思うんですけど、部署によってはできないことはない、そんな状況だと思います。大分市さんは、この度のコロナ禍を受けてテレワークに関してはどういった取組をされていたのかということと、導入の検討ということで今後どういう方向性を考えておられるのかということをお教えいただきたいと思います。</p>
安部委員長	<p>総務部長、お願いします。</p>
総務部長	<p>はい。今長崎委員のおっしゃったそのとおりでございまして。基礎自治体としてですね、業務としては、対面の業務が本当に多いわけでありまして、テレワークの推進のためにはですね、この今後の取組方針に書いてありますように、手続のオンライン化、デジタル化は必須であるというふうに考えております。</p> <p>今回、大分市としてもですね、テレワークの導入を検討し、また要綱も定めて推進していく形にしてるんですけど、実際はですね、まず緊急事態宣言が発せられた東京事務所では、必然的に4名の職員がテレワークで業務を行いました。本市においても、実際職員が感染して</p>

	<p>発症すれば、業務継続計画の中で、2分の1の職員で交代で勤務という形になろうかということで、テレワークの導入を考えておりましたけれども、そういう状況にはならなかったわけではあります、今おっしゃったように事務職場、総務企画、こういった職場では、テレワークの導入が可能でありますので、今後一部の職場でテレワークを試行することによって、職員の業務管理をどうするかとか、ある程度業務目標を定めた中で、1日の業務をどう評価していくかという課題について整理していきたいと思っています。</p>
長崎委員	<p>ありがとうございます。これから実際試行してみて、問題点を洗い出していくという、そんな感じでしょうか。</p>
総務部長	<p>はい。そうです。</p>
安部委員長	<p>他にありませんか。</p> <p>私の方から1点。今のテレワークの関係じゃないんですが、コロナの問題は今年の1月におきて、今も災害が起きてるとこなんですが、一部の職員さんに仕事が非常に過重になっているという話をお聞きするんですが、労働時間が残業で80時間から100時間ぐらいいくと、過労死ラインと言われてますけど、その辺を超えている方の管理とか、改善に向けてどうなっているんですかという点、少し教えていただければと思います。</p>
総務部長	<p>総務部長です。今回のコロナ禍で一番業務的に比重が大きかったのが、保健所であります。</p> <p>2月の下旬から、24時間の相談体制を組みましたので、保健師による相談が急増しまして、始まった当時は、保健所の保健師は、かなりの長時間勤務を強いられたんですけども、途中からですね、他の職場にも保健師がおりますので、全保健師に兼務辞令を出して、保健所の手伝いに行かせました。その保健所の保健師についても、ルーチンを見直して、業務時間を変えていきながら、休みをきちんと取れるような形でのシフトを組んで、何とか乗り切ってきたわけであります。</p> <p>長時間の労働を強いられたんですけど、メンタル的に、身体的に悪くなる職員はいなかったということでもあります。</p>
安部委員長	<p>ありがとうございます。他にありますか。池邊委員。</p>

池邊委員	<p>池邊です。ES、従業員満足度についてお聞きします。</p> <p>多くのプランを進め成功させていくためには、実際にそこに働いている人たちが、その取組やチームリーダー、仲間のことを理解しワンチームとなる必要があると思います。そして、相手にいいものを提供しようと思えば、まず自分たちが笑顔になれるような職場環境や人間関係の整備なども併せて重要になってきます。それら環境の整備や満足度調査など、何か取組をされているものがあれば教えてください。</p>
安部委員長	<p>いかがでしょうか。総務部長お願いします。</p>
総務部長	<p>ES に関してですね、直接的な調査というのはまだ無いんですけども、人事評価の中で、業績評価と申しまして、それぞれ職員が1年で行う業績、業務について、ある程度目標を定めて、それについて所属長が一人ひとり面接を行います。その中で、職員に対して職場の考え方、業務の考え方等、そこでコミュニケーションを取るような形をとっているところであります。</p> <p>また、人事異動等についてはですね、なかなか所属長に言えないという状況がある場合はですね、直接人事の方に自分の考え方なり、自己申告という制度がありまして、異動についての考え方を直接人事へ言える制度を設けてあります。</p> <p>あと、一番大切な職員のストレスについてですが、これは月に1回のセルフチェックと共に、年1回のストレスチェックをかけているところであります。ストレスの度合いは、全国平均では指標は10%なんですけど、大分市の場合は今のところ8.5%ということで、全国平均よりは下回っている状況でありますけれども、このメンタルヘルスの制度を活用してですね、職員の意見を吸い上げる中で、満足度を高めていきたいと思っています。</p>
池邊委員	<p>ご説明ありがとうございました。ラグビーワールドカップでの取組の際に、大分市職員の方と御一緒する機会があったのですが、みなさん笑顔でテキパキとチーム感を持って動かれていたのが印象的だったので、特別なプログラムなどをされているのかなと思いお聞きしました。</p>
安部委員長	<p>他に質問はありませんか。はい。渡邊副委員長。</p>

渡邊副委員長

今日はありがとうございました。大変勉強をさせていただきました。

いろいろお話を伺いまして、先生方、委員の皆様の見解も踏まえまして、3つというか、2.5のお話をさせていただければと思いました。

1つ目は今回、行政改革推進プランということでしたので、行政改革に関わって言いますと、とっても努力をされていることは、よく分かりました。ただですね、市民を巻き込んでの行政改革が必要ではないかと思いました。多くの市民、住民が分かっていない部分が多いと思うんです。この行政改革は何のために行っているのかということですね。分かりやすくというかですね。かつて、日本の財政を示すときに、安倍首相の一家をもじって、安倍家の家計というような形で、1つの国の財政を一家の財政に例えるようなお話があったごとくです。分かりやすく説明をしていただければということと、情報共有をお願いできればということと、やはりそうはいつでも教育であるとか、福祉であるとか、災害の部分は絶対死守してもらいたいところでありますので、そここのところとの兼ね合いをお願い申し上げたいです。

それから、凄い無駄取りというか、無駄の排除はされてきたのかなと思います。先ほども出てきましたが、ある意味イノベーションというか、何か付加価値をつけて新しいものを作っていくかというか。エネフォレストさんの例もありましたが、ベンチャー企業が頑張れば、いろんなところでチャンスがあったり、自分達の力を発揮できるというところで、是非アイデアの創出ですとか、具現化のお手伝いをお願いできればと思っています。そのためには、人材の育成というか、人材の改革の部分、入ってくる採用の段階、その前の段階、大学であるとか、高校、小中、あるいはもっと前の段階からですね、いろんな教育をお願いできれば。私たちも含めてやっていきたいと思っています。

あとはやはり、異分野というかですね、いろんな業種がある中での、異分野からのアイデアというの、とても大切になってくるかと思っています。今回の改善にせよ、トヨタ生産システムなど、本来であれば製造業で当たり前のところ、やはりこれがサービス業であったり、行政であったり、そういう所に波及をしている流れもありますので、是非行政改革のイメージがどうしても無駄取り、剥ぎ落としっていう感じを、イノベーションの創出というか、それも若い世代を中心としたイノベーションの創出に変え、先ほどあった、大分市からのイノベシ

	<p>ョン、それを是非実現をしていってもらえればと思っています。そのためにはやはり、働く場の確保でありますとか、社会で活躍できる場っていうところ、その主体となる人達がしっかりと認識をすることだと思いますので、私たちも教育機関としての大学なども、お手伝いさせていただける部分は、どしどしさせていただきたいと思っております。</p> <p>それから、3つ目のお話なんですが、是非女性活躍の推進を実現していってもらえればと思います。本日ここにお集りの方々の中に、女性がたった3人しかいないのは、非常に寂しいところではございます。委員の方ではですね、5人の女性はいるんですけど、ダイバーシティ促進の中で、女性男性の区別は逆行していることは重々承知してはいるんですが、ただこういう改革であるとか、行政のイノベーションは女性もいろんな力を発揮できると思いますので、是非お願いします。以上でございます。</p>
<p>安部委員長</p>	<p>他に御意見はありますか。谷川委員。</p>
<p>谷川委員</p>	<p>先ほど福祉避難所の話が出たので、このような天気が続きますので、現状だけお伝えできればと思っております。</p> <p>車椅子の団体さんからの情報です。今回福祉避難所の状況が分からずに、避難ができなかったというお声がかなりありました。なぜ避難ができなかったかという、車椅子の方は避難所の段差やトイレの情報がどうしても必要です。高齢者の方も避難に困ったという声もありました。現在インクルーシブ防災に取り組んでいる団体さんもいらっしゃる。その様な団体と行政が積極的に連携していただきたいとのお願いです。よく個人情報の問題点を連携の際に言われますが、全ての個人情報が知りたいわけではないですし、障がいの度合い等を知りたいわけではありません。その方が必要とする支援は何かとか、避難する際に何人必要か支援のための内容を知りたいだけですので、今後も避難所の生活が続く方も多いかと思えます。当事者も参加しての協力体制を是非お願いしたいと思っております。</p>
<p>安部委員長</p>	<p>他にありませんか。時間があまりないんですが、まだ井上委員とか、今日発言いただいてないので、もしよろしければ、何か御意見とかあれば。</p>

井上委員	<p>井上です。よろしく申し上げます。今日1日勉強させていただきまして、自分が知らないことが沢山あって意見が言いづらかったところもあるんですが、一般市民としては、先ほどおっしゃっていただいた、女性が少なくなっているのが一番に感じていたんですが、委員の皆様を見る限り、女性はかなり発信することが多いのと、男性とは違う目線でお話していただける。女性の方が柔らかく話してくださるので、私は分かりやすかったなというのが印象であります。今後何回か参加させていただくことがあると思うので、その時は女性の人数が増えているといいなと思います。以上です。</p>
安部委員長	<p>その他、矢野委員はいかがですか。</p>
矢野委員	<p>お疲れ様です。今回行政の効率化の観点でお話をいろいろと聞かせていただく中で、効率化をすることになりますと、ややもすると、そこで働く方々、いわゆる、人に関わってくる部分があるんだろうと思います。そうすることによって効率化されてくる、金額に反映されてくると思うんですけど、一方で行政サービス、市民サービスは求められているものが多くなったり、よりマンパワーがかかるものも多くなっているという観点もあるのではないかと思うんですね。真に住民の方が満足できるサービスをしようとする、ややもすると、そうした相反することが出てくるのかなと思ってまして、そういった観点から、今後求められる取組の中でも書かれているように、いろんなものをデジタル化、オンライン化する中で、そこで働く方々の負担を減らすことに取り組んでいかなければならないのではないかと、是非そういった視点で取り組んでいただければと思います。</p>
安部委員長	<p>他に意見等はありませんか。時間の都合もありますので、議事の3、大分市行政評価・行政改革推進委員会の指定管理者評価部会の部会員の指名について、事務局の方から説明をお願いしたいと思います。事務局お願いします。</p>
行政改革推進室長	<p>大分市行政評価・行政改革推進委員会指定管理者評価部会の部会員の指名について説明させていただきます。</p> <p>本日お手元に2つの要綱をお配りさせていただいておりますが、その1つが大分市行政評価・行政改革推進委員会設置要綱、こちらの委員会の設置要綱でございますが、第7条の規定に基づき、本委員会に</p>

<p>安部委員長</p>	<p>は部会として、指定管理者評価部会を設けております。大分市行政評価・行政改革推進委員会指定管理者評価部会設置要綱というのが、もう一つございまして、その第3条の規定で、本委員会に属する委員のうちから、委員長が指名する者が部会員となることになっておりますので、その指名について、安部委員長にお願いいたします。</p> <p>それでは、私の方で事務局と協議をいたしまして、本委員会から石井委員と長崎委員の2人に、指定管理者評価部会の部会員への就任をお願いしたいと思いますが、この場で同意いただけるでしょうか。</p> <p>(一同異議なしの声)</p> <p>2人とも御承認いただけるということなので、よろしく願いいたします。それでは、本日の予定しておりました全ての議事について審議を行いました。皆さん、熱心な御議論をありがとうございました。それでは、事務局に進行をお返しします。</p>
<p>行政改革推進室長</p>	<p>安部委員長、ありがとうございました。事務局より、今後のスケジュール等について、1点連絡がございます。</p> <p>次回の第2回大分市行政評価・行政改革推進委員会でございますが、10月26日月曜日、13時30分から15時30分の時間で、開催をさせていただく予定としております。第2回の会議では、行政評価についての御審議をいただきたいと考えております。場所や議事内容等の詳細については、改めて事前に御連絡させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いします。それでは最後に、市長より一言、御礼を申し上げます。</p>
<p>市長</p>	<p>委員の皆様、今日は大変貴重な御意見をいただき、ありがとうございました。</p> <p>中でもですね、コロナ禍におけるイノベーション、そしてデジタル化、オンライン化大変重要だと思います。大分から発信していきたいと思っております。GIGAスクール構想ということで、オンライン化の取組を3か年計画で進めるところだったんですけども、こういう状況の中で大変重要だということで、今年度中に1人1台のタブレットが行き渡るように9月の補正等で提案を申し上げて進めていきたいと思っておりますし、様々な形で進めていきたいと思っております。</p>

	<p>それから、今日の福祉避難所のお話でありますとか、スクールソーシャルワーカーのお話ですとか、車椅子を利用されている方への情報でありますとか、こういう状況下で人対人に関わる話は、オンラインとかデジタル化とかとは別に、むしろいかにそういう困った方のニーズに基づいていくかということでございますので、そういう取組もますます重要になってくるのではないかなと考えております。御意見を踏まえて、しっかり取組をさせていただきたいと思っております。</p> <p>それから、女性の活躍の点ですけれども、今日御指摘いただいて、そういう事かなと思っておりますが、これから活躍できる女性もいますし、今の部長さん方が後進を育ててくださいますし、私どもも女性に活躍していただきたいと考えておりますので、引き続き取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>今日は誠にありがとうございました。</p>
--	---